所報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

知夫村の取組紹介

知夫里島留学…順調に八年目突入

『知夫里島学び舎構想』の柱の一つとして知夫里島留学を実施しています。これは、島内生と島留学生が共に交わり、島内生は県内外からの刺激を、島留学生には島の学校でしか味わえない経験を得ることを目的として始めたものです。

きっかけは数年前に村内の保育園児数が極端に少なくなったことです。「このままだと五年後十年後に、学校で集団的な学習が成り立ちにくくなる。」と危惧されたため、島外からの児童生徒の募集に着目しました。そして島留学プロジェクトチームを発足させ何度も会議を重ね、地域の方の協力を得て島留学生の生活拠点である『はぐくみ寮』を整備し、二〇一七年に島留学一年目を迎えることができました。寮生は家族と離れて生活するため、対象学年を小学部五年生から中学部三年生に限定しています。（新規受付学年は中学部二年生まで）寮生の人数は八名とした年度もありましたが、寮内の生活環境等や支援を行う大人『ハウスマスター（以下ＨＭ）』の人数の関係で現在は六名で実施しています。

今年度四月には新たに二名の島留学生が入れ替わりました。結果、島留学生は中学部ばかりの六名となりましたが関東、近畿、九州と様々な地域からの来島で中学部は島内生も合わせて九名となりました。島内生・島留学生の双方にとって、刺激のある学習集団となりました。特に総合的な学習の時間や児童・生徒会では各自のそれまでの経験を出し合い多様な取組がなされています。

教育委員会事務局内の朝会、毎週木曜日のＨＭミーティング、毎月一回の学校教委連絡会などを中心に、島留学生に関する情報を共有しながら、健康で有意義な生活を送ることができるように種々の取組を行っています。

五月初旬からは、来年度の島留学希望者に対して、テーマ別説明会やオンライン面談を実施してきました。九月、十月にかけては島留学希望者への二泊三日の短期体験を、三回実施予定です。

来年度以降も知夫小中学校の児童生徒の充実した学校生活のため、島留学の環境を整えていきたいと考えています。

（派遣指導主事　塚本）

※『知夫里島学び舎構想』
知夫村の次代を担う子供たちの育成と村民が「誰でも、いつでも、どこでも、なんでも」学ぶことができる知夫村を目指し取り組むための基本的な考え方や方策をまとめたもの。
～知夫村教育委員会より～

学校運営協議会がスタートしました

知夫里島学び舎構想のもと、社会教育行政の方針では「学校・家庭・地域の連携協力をさらに強化し島全体で子供から大人の教育を進めるとともに、村民が集い、学び、結び合う活動の充実と創意工夫を図る社会教育の充実を目指す。」とし、地域と連携した教育を進めてきました。

今年度より知夫小中学校では、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会（以下協議会）を発足しました。これまでの学校評議員制度では、校長の求めに応じて意見を述べて終わるのに対して、協議会では委員と学校が互いに意見を述べ合う合議体として運営されていきます。それぞれの役割を果たしながら地域・学校・保護者が当事者意識をもって子供たちを育てていくために共通の目標を共有する仕組みとなっており、知夫村教育委員会が目指す教育に合致します。

六月には、第一回の協議会を開きました。テーマは「知夫の子供たちの強みと弱み」でした。地域と学校それぞれの知夫の子供像をすり合わせることが目標です。初めての会議でしたが、各委員の方が自分の意見を発表したり、共通点や相違点を見つけたりしながら、現在の知夫の子供たちについて以下のようにまとめました。

①思いやりがあって学年関係なく仲良くしている。
②しっかり話を聞いて行動することができる。
③枠にはまっていて自己主張が弱いと感じる。
④知夫には豊かな自然の遊び場がたくさんあるのに外で元気に遊んでいる姿が少ない。
⑤自分で判断することが苦手。

二学期に行われる第二回の協議会では、③④⑤について焦点を当て、子供たちの力を伸ばせるように具体的な取組を考えていきます。活発な議論を継続し、地域と学校が手を取り合って協働できる協議会にしていきたいと思います。

（派遣社会教育主事　池田）

ワクワクを途切れさせない学校

先日、島根大学との連携活動「教育人材育成プロジェクト（教員養成セミナー）」が隠岐高校で行われ、教員の仕事に興味を持つ生徒たちに対して「隠岐の教員の仕事や現状・課題」について講義する機会を頂きました。その中で「どうして隠岐の先生方は本土出身、隠岐出身に関わらず仲が良いのですか？」という質問がありました。私の返答は割愛します（興味がある方はお問い合わせ下さい）が、生徒たちが先生方のそのような雰囲気まで感じてとっていたことに驚き、嬉しく感じました。

学校の魅力は子供たちに「ワクワク」を感じさせるところだと思います。仲間と過ごす時、学ぶ時、自分を鍛え成果を感じた時、不安や問題が解決する時…。そんなワクワクを自分たち自身も感じている教職員集団は、児童生徒から見ても魅力的なのでしょう。また、今回参加した生徒たちは保・幼・小・中・県立が一体となってワクワクを途切れさせない教育を系統的に受けてきた成果だと感じました。

隠岐教育事務所は今後も「元気とやりがい」を届け、各校の「ワクワク」形成のための支援を続けていきます。今年度下半期もよろしくお願いいたします。

（文責　新谷）